

双子の幼馴染みが
ヌードモデルをしてくれる

Full color 40page
illustrationbook

18歳以上対象
R 18
成人向け

緒方亭

時系列と既刊の紹介

絵師になりたいボクのために
また一肌脱ぐ幼馴染み



絵師になりたいボクのために
一肌脱ぐ幼馴染み



幼馴染みと
夏の思い出



幼馴染みが間違っ
てヌードモデルを
してしまう



両思いの幼馴染みが
ヌードモデルを
してくれる

本作

pixivbooth、各種ダウンロードサイトなどで
販売中→「緒方亭」で検索

向井津奈美

誕生日2月4日

T156 B93

W58

H87

電子版にのみ
登場していたヒロインの
双子の妹

向井沙奈美

誕生日2月4日

T156 B91

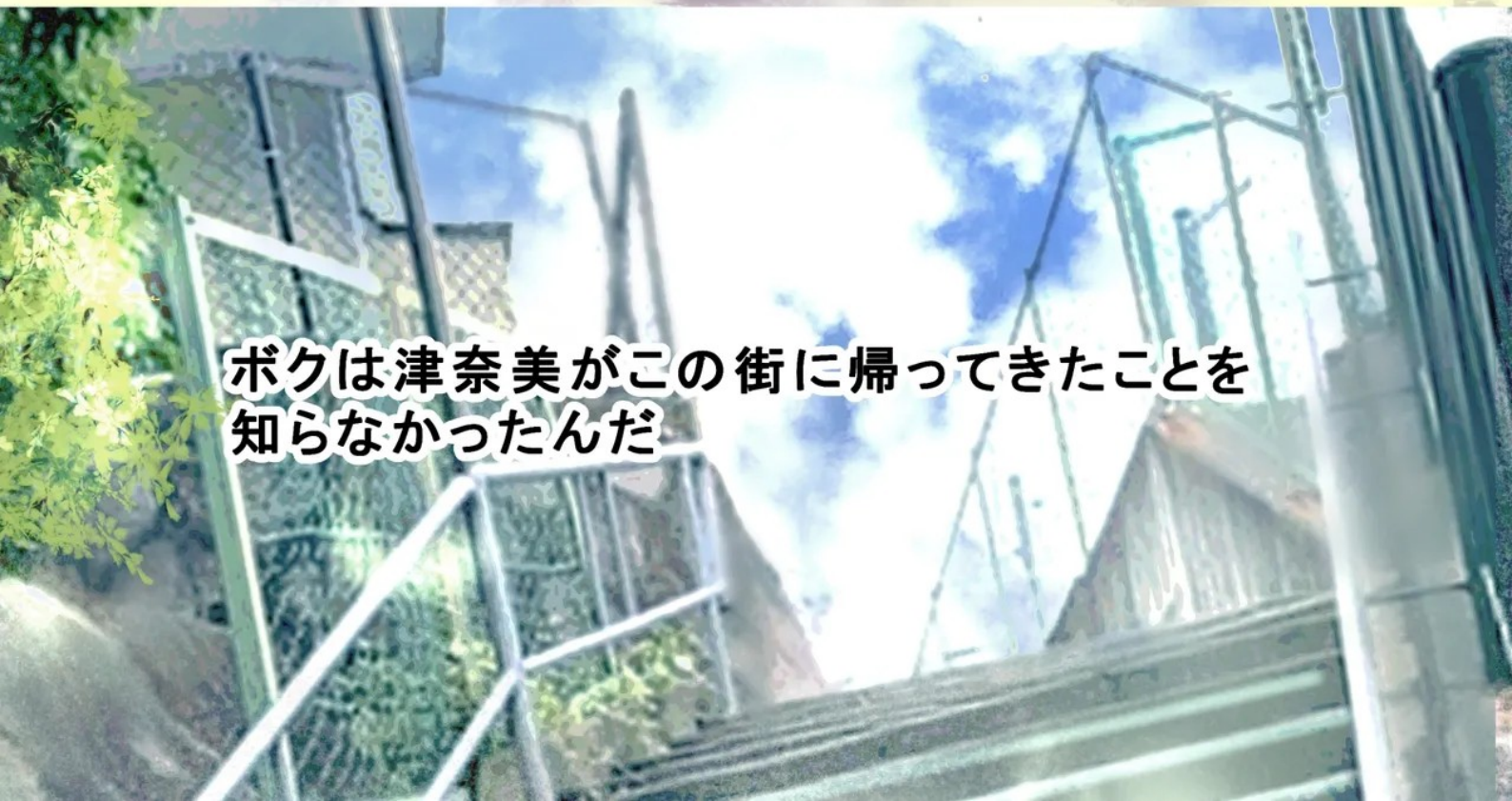
W58

H87

絵師になりたい
主人公(ボク)のために
一肌(全裸)脱ぐ
幼馴染みの女の子。
主人公とは最近恋人になった



最近恋人になった幼馴染みの沙奈美^{さなみ}には双子の妹がいる。
小さい頃は三人一緒によく遊んだものだが
今は家庭の事情で妹の津奈美^{つなみ}は少し離れたところに住んでいる



ボクは津奈美がこの街に帰ってきたことを
知らなかったんだ

ある日差しの強い日
“彼女”の後ろ姿を見つけて声をかける

「.....」

（あれ？今日はメガネをかけているんだな）

「イラストコンテストの締め切りが近いんだ!!
またモデルになって欲しい」

「えっ?.....」

「頼む!!
この通り!!」

「え。。。ええ。。。良いですよ」

「ありがとう!!沙奈美!!
今からでも良いか?」

「アア..」

（姉さんと間違っているんですね
ちよつとからかってみたく
なりました）

「今回はちよつと初々しい感じで
脱いでほしいんだ」

「あのね……私……」

「よろしく頼む!!」

「……あの……」

(まさかヌードモデルだなんて……
姉さんはいつもこんなことをしているの?)

(あれ? 沙奈美……
下着の趣味が変わったかな?)



「.....」

沙奈美はボクの要望通りまるで
はじめて裸を見せるかのように演技してくれている

（どうしよう.....
でも悪いのはわたしだし.....）



「んーんーっ」

(最後の一枚が
どうしても脱げない……)

(今なら本当のことを言えば
笑って許してくれるかな……)

初めて脱いだ時の
沙奈美を思い出させる名演技だ
彼女にこんな才能があったとは





(あなたになら……
全部見られても……)

なぜか
分からないけれど最後の一枚を脱ぐ姿が
いつもの沙奈美とまるで違う気がした

「お……お待たせしてごめんなさい
どど……どんなポーズをしますか？」

本当に
初々しい演技をする
沙奈美に感心する

そしていつ見ても
沙奈美の体は綺麗だ……

「そうだな……
ちよつとぎこちない風に
上も下も隠さないみたい
な感じで
頼めるか？」

「は……はい……」

「う……これでいいですか？」

沙奈美はボクの要望通りに
ぎこちなくも全てを見せるポーズを
してくれた

（す……すっごくすっごく恥ずかしい……
姉さんはいつもこんなことを
しているの……？）



「少しずつ慣れていく感じで
ポーズを変えてみてくれ」

「はい。。。」

（あれ？
なんだか少し
楽しくなってきたような
気がします。。。）



…なんだか
いつもの沙奈美より
大胆になってきた
ような…



今日の沙奈美が
いつもと雰囲気違って見えるのは
メガネのせいだろうか・・・

それとも・・・



ある違和感に気づいた
ボクは思わず彼女に
近寄つてとある部分を
凝視した

「!!」

「ギャツ!!
なにをするの!?!」

「沙奈美。。。お前こんなところに
ホクロあったつけ?」

「。。。もしかして津奈美?」



「二人とも何やってるの?」

「沙奈美……!」

「インターホンを鳴らしても出なかったんで入って見たら……」

……そういえば
壊れていたんだった

「あなたわたしの妹の津奈美まで裸にして……」

「違う!!これは色々行き違いで……
それにヌードになると言い出したのは沙奈美だろ!!」

「え?沙奈美姉さんが言い出したの?」

「論点はそこじゃないいい!!」

ダメだ
あまりに突然の出来事に思考速度が追いつかない

「お兄ちゃん……?」

「この声はまさか……!?!」

「妹!!」

このタイミングで
言うことではないが
ボクは普段から
妹を妹と呼んでいる

「沙奈美さんと……
津奈美さん……?
なんで津奈美さんは
裸なの……?」

「お……お前今日は
漫研で遅くなるんじゃない
なかったのか!」

「うん
ちよつと忘れ物して
……」

妹まで乱入するとは……

ボクは沙奈美と付き合い始めて
時々ヌードモデルをしてもらっていることを
まだ話していなかった

あれ? 順序が逆だっけ?

ヌードモデルをしてもらってから付き合い始めて……
そんなことはどうでもいい!
この事態をどう收拾させる!?

「お兄ちゃん……」

「妹……」

「まさかとは思うけど……」



「いつまでもはっきりしないお兄ちゃんに
沙奈美さんが意を決してヌードモデルを買ってでで
三人はお付き合いをすることになって
お兄ちゃんは津奈美さんがこの街に帰ってきたことを知らなくて
うっかりモデルを頼んでしまい
津奈美さんもちよっとからかってみるつもりで
引き受けちゃったんだけどヌードモデルって知らなくて
沙奈美さんに比べて性格の大人しい津奈美さんは
言い出すに言い出せなくなったのね
そういえばちよっと前から
ウチのインターホンが壊れていたわ」

妹よ・・・！
将来ボクに文才が生まれたら
「妹名探偵はマンガ家志望！」というラノベを書こう！
もちろん挿絵もボクが描く！

「ね・・・ねえ・・・わたし沙奈美さんと津奈美さんに
お願いがあるんだけど・・・」

妹が何やらもじもじしながら言う



「うっ…こんな感じで良い？」

沙奈美が困惑しながら言う

「わたし百合マンガ家になりたいくて
ずっとモデルを探していたの」

（妹よ…）

お前はそんなマンガを
描いていたのか

「姉さんもう少しくつつきましよう」

なぜか津奈美はノリノリの様子

「.....」

あまりの美しさにボクは言葉を
失う

「ねえ二人とも
ちよつと笑つてみてくれますか？」





ここは
現代の桃源郷かもしれない
本気でそう思ったんだ・・・

「ね・・・ねえちよつと
どちらか攻めてみてくれませんか？」

「ちよ・・・妹・・・お前なんてことを!!」

「え？攻めるつてなに？」

「じゃあわたしがちよつとだけ・・・」

きよとんとする沙奈美の背後に
津奈美がまわる

「ん・・・」

ぴんぽん

二人とも
素直すぎだろ・・・





「姉さん……
すごく柔らかい……」

ぴんぴん

「そ……どう？」

ぴんぴん

ぴんぴん



ぐんっ

キュッ..

「あっ。。。」

「あっ……んっ……
ちよつと……津奈美……」

「我慢してください姉さん……
芸術のためです」

(姉さん可愛い……)

びくっ

「んっ……」

「んっ……」

「あんっ……
そこは……」

びくっ

「……」

「……」

ボクとボクの妹はただただ
それを見ていた……

びくっ



「あっ……」

「あっ……」

（姉さん……やっぱり双子ね……
同じところが好きなんだ……）

びゅん

びゅん

「……ん」

「あん」

「やだっ……」

「だめ……っ」

「う……っ……っ」

ぞん

ずんずん



ああ

あああ♡

ばん

ばん

ばん

「お……お願いだから
今日見たことは忘れてね……」

「ごめんなさい姉さん……
つい調子に乗ってしまいました」



二人を見送った後
ボクと妹はただ呆気にとられていた

「す……すごいものを
見ちゃったね……」

「あ……ああ

沙奈美は忘れてって言ってたけど
脳裏に焼き付いて忘れられるもんじゃない」

「……ねえお兄ちゃん……」

「なんだわが妹よ」

「わたしもお兄ちゃんにヌードを描いてもらいたくなっちゃった」

「!!」

「いつでもいいぞ
今さら実の妹の裸を見ても
なんとも思わないしな」
わざと少しそっけなく答える

「わたしだって結構
成長してるんだからねっ」

「おおなら今度じっくり
確かめてやる」

ボクと妹は本当は血がつながっていない
そしてそのことを妹は知らないはずなんだ

幼馴染みにI字バランスを頼んでみた

つい最近彼女になった
ボクの幼馴染みは絵師になりたいボクのために
ヌードモデルになってくれる

「ふーん♪ふふーん♪」

「あのさ沙奈美……」

「んー？なに？」

「いまSNSで
I字バランスっていうのが
流行っているんだけど沙奈美
できるか？」



「で……できるけれど……」

「頼めるか……?」

「えええ?……あれ
すつごくすつごく
恥ずかしいポーズ
よね……?」

「た……頼むよ
沙奈美……あれこそ
実物を見ないと描けないんだよ」

「……oo」

「頼むよ……この通り!!」

「……分かった……」

「はい……これで良い？」

「……」

「これで許して……
水着を着てでもすっごく
恥ずかしいんだから……」

本当に恥ずかしそうに
している沙奈美を
見ていると少し
意地悪がしたくなってくる

「あのさ沙奈美……
やつぱりヌードでして欲しい」

「え……？」

「頼むよ沙奈美……大丈夫……沙奈美の体に
綺麗じゃないところなんてありはしないさ」
「……分かった……」

『……』

『……』

『……』

しばしの沈黙

不覚にもボクは見惚れて
しまっていた
さつきほんの冗談のつもりで言った
彼女の体に綺麗じゃないところなんてない
という言葉を噛みしめていた

「ごめん!!
すつごくすつごく恥ずかしくて
もう限界……!!」

「お……おう……
もう十分だからとうとう……」



「ごめんねごめんね……
あまり役に立てなくて……」

「いや……そんなことないって
無理を言っでごめん」

涙目の彼女を見て
もう冗談はほどほどに
しようと思った

「クスクスクス……」

「ど……どうしたんだ？」

「はじめてヌードになった時の
ドキドキを思い出したの」

困ったことに
ボクは改めて
彼女に恋をして
しまった

幼馴染みにI字バランスを頼んでみた(津奈美ver)

「あのさ津奈美……」

「なんですか？」

「いまSNSでI字バランスっていうのが流行っているんだけど津奈美できるか？」



「で……できるけれど……」

「た……頼めるか……?」

「えええ?……あれ
すつごくすつごく
恥ずかしいポーズ
ですよね……?」

「た……頼むよ」

津奈美……あれこそ
実物を見ないと描けないんだよ」

「……」

「頼むよ……この通り!!」

「……分かりました……」

「……これで良いですか？」

「………」

「これで許して……
水着を着てでもすつごく
恥ずかしいんです……」

本当に恥ずかしそうに
している津奈美を
見ていると少し
意地悪がしたくなってくる

「あのさ津奈美……
やつぱりヌードでして欲しい」

「ええええ!？」

「頼むよ津奈美……大丈夫……津奈美の体に
綺麗じゃないところなんてありはしないさ」

「……………分かりました……」

『……』

『……』

『……』

しばしの沈黙

不覚にもボクは見惚れて
しまっていた
さつきほんの冗談のつもりで言った
彼女の体に綺麗じゃないところなんてない
という言葉を噛みしめていた

「ごめん!!
すつごくすつごく恥ずかしくて
もう限界です。。。!!」

「お。。。おう。。。
もう十分だありがとう。。。」



「ごめんなさい。。。あまり役に立てなくて。。。」

「いや・・・そんなことないって無理を言つてごめん」

涙目の彼女を見てもう冗談はほどほどにしようと思った

「クスクスクス……」

「ど……どうしたんだ？」

「はじめてヌードになった時の
ドキドキを思い出しました」





10 ページ目
没イラスト





あれ？今日はメガネをかけているんだな



す……すっごくすっごく恥ずかしい……
姉さんはいつもこんなことを
しているの……？

「姉さん……
すごく柔らかい……」

「そ……そう？」